

# 民進

Minshin Press (民主改題)

号外 静岡3区版  
平成28年10月号

民進党 民進プレス編集部  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町1-11-1  
電話 03-3595-9988(代表)  
Eメール press@dpj.or.jp  
URL https://www.minshin.jp

# 明日の日本 生活が第一

～ 協同・連帯 共生・安心 ～

衆議院議員 民進党静岡県第3区総支部長



## 小山のぶひろ

氏に訊く

### 安倍政権の政策を問う！本会議で討論

十月十一日、平成二十八年年度の補正予算が成立しました。予算委員会の質疑を通じては様々な安倍政権の問題点、アベノミクスなるものの矛盾点が明らかにになってきました。

#### ○生活破壊の厚生労働政策。「年金カット法案」等

政府が今国会で成立を意図する年金改革法案は、「賃金が下がった場合、物価が上がっても年金がカットされる」ことが明らかになり、十年間で5%程度もの大幅な減額になる可能性があることが明らかになりました。また、検討中の「要介護1、2の生活援助サービスの全額自己負担化」は、家族の介護負担を増やし、要介護者の病状悪化を招きかねない。女性活躍推進に逆行することになると考えられます。加えて、「残業代ゼロ法案」は、長時間労働を助長する労働基準法の改悪そのものです。一連の厚生労働政策は、安心して暮らせる社会を目指すものというより、生活を破壊し、不安を増大させる政策と言わざるを得ません。

#### ○アベノミクスなるものは行き詰っている

日本銀行は、先の金融政策決定会合で「総括的検証」と称し、二年で前年比二%の物価上昇目標を放棄しました。これはアベノミクスなるものの大変更です。そもそも第一の矢である異次元の金融緩和により、デフレマインドがインフレマインドに変わり、持っているとお金の価値が下がるので企業は投資をす、消費者は消費をする、そのことで企業収益は上がり、賃金は上昇していくと想定されてきました。しかし、現実には起きているのは、悪い物価上昇、実質賃

金の低下による消費の低迷です。また、倒産件数が減ったと言いますが、自主廃業件数は過去最高の水準にあります。「もはやデフレではない」のなら、とくに、消費、投資、企業収益、賃金の全てが上向き、経済は軌道に乗っているはずですが、今回の補正予算でも、目立つのは旧来型の大規模な公共事業ばかりです。これまでは地方の活性化には時間がかかるから「一時的に」大規模財政出動が必要とのことでした。安倍政権の誕生から既に四年が経過していますが、「一時的」であるはずの大規模財政出動が繰り返されるのは、アベノミクスなの「道半ば」ではなく、根本的に間違っていると考えるべきです。

#### ○「国民の生活が第一」の政策が必要

日本経済を真に再生するには、国民の生活の安定による個人消費の回復が必要です。今まで以上に個人の能力発揮を促す環境を整える必要があります。民進党は給付型奨学金の創設、保育士・介護士の給与引上げなど、「人への投資」に関する数々の具体策を提案してきました。国民の皆様が安心して暮らせる生活、安心して働くことができる環境を守り、創造していくこと、それによつて個人消費が回復する政策こそが求められており、その実現に向けて今後も取り組んでまいります。

衆議院議員

小山 展弘

## 小山展弘 活動報告

### ○衆議院本会議に登壇し、会派を代表して討論



10月4日、衆議院本会議にて、民進党・無所属クラブを代表して、安倍政権の提出した平成28年度第二次補正予算に反対討論を行いました。討論の中では、年金制度変更の問題、地方や中小企業の皆様にとっては決して景気回復の実感がないことなどを指摘しました。とりわけ自主廃業した中小企業の経営者の方からの「こんな経済環境で景気が良いというならば、安倍さんに『現場を見に来い』と言ってやりたい」という現場の声、悲痛な声

を紹介したうえで、アベノミクスなるものの行き詰まり・破綻と修正が必要であること、個人消費回復のために、安心して暮らせる環境を創造する「国民の生活が第一」の政策がより必要であること、給付型奨学金などの「人への投資」が一層求められていることなどを主張しました。

※討論は2016年10月16日静岡新聞にも取り上げられました。

### ○地域の行事にも参加しています

10月に入り、各地でお祭りが行われています。小山展弘も、住んでいる磐田市中泉の府八幡宮祭典に参加したほか、各地の祭典に見学・ご挨拶、神事に出席させていただいております。

祭典や、会所などで、様々な地域の声を伺います。その地域独自の問題について、或いは「アベノミクスなるものが地方に波及しているとは感じられない」「去年よりも沿道に出る人の数が減ってしまった。中山間地域は本当に疲弊している」という地方の声など、時には膝詰めでお話を伺うこともあります。

これからも地域の声、現場の声をしっかりと伺って、国会に届けてまいります。

